

## パセナカ・ミッセ オープン！！

(下写真)  
3階のスポーツ広場



2月25日(金)パセナカMisseがオープンした。パセナカMisseは、パセオ通りに面したショッピングも、食事も、スポーツも楽しめる福島の新たなアクティブスポットで、オープン初日も多くの人がつめかけた。建物の1階にはNPO法人エフ・スポーツの事務所があり、3階のスポーツ広場では、フットサルのゲームができるスペースも確保されていた。エフ・スポーツでは「散歩コースもつくり、街中で散歩が楽しめたり、会社帰りに気軽にスポーツができたりと、手軽にスポーツができるようサポートしていきたい。」と話してくれた。



(上写真)  
パセナカMisse

## 福島大学 演劇研究会 公演 「拍手を集めたオルゴール」



(上写真)  
挨拶する清野代表

4月30日(土)福島大学演劇研究会は、ふくサポ多目的ホールにおいて震災後初めての公演「拍手を集めたオルゴール」の上演をおこなった。パンフレットには「福島市の街は、外見、すっかりいつも通りに見える。なら、お芝居をやっている私たちは、お芝居をと思いましたが、でも、実はそんな風に思った時点で、いつもどおりはいままでどおりではないですよ。大好きなお芝居でほんの少しでも彩を加えられたら光栄です。」との挨拶があった。上演中地震もあり、中断する場面もあったが、会場にはたくさんの人が集まり、上演終了後にはあふれんばかりの拍手が響いた。早く心からお芝居を楽しめる時がくるといいと願わずにはいられない。



(上写真)  
演劇の様子

## ふくサポ探検隊～ニャンコ隊長、紹介！図書コーナーの巻～



ニャンコ隊長

今回は交流広場と図書コーナーに注目してみました。

### 交流広場の窓から

現在、ふくサポでは、市民後見サポートの会によるパネル展が開催されています。活動紹介に是非交流広場をご利用ください。



### おすすめ☆図書コーナー



図書コーナーには現在、200冊を越える蔵書がございます。蔵書のほとんどが貸し出し可能となっておりますので、是非、ご利用ください。

## ～お知らせ～

会議室の長机や椅子などが増えました。より使いやすくなった会議室を是非、ご利用下さい！！

### 編集後記

3月11日の震災から時があつという間に過ぎ、気がつけば、5月になっていました。震災後、県内外からたくさんのあたたかいお言葉やご支援をいただき、人のぬくもりをたくさんたくさん感じた2ヶ月でした。ふくサポは、幸いにも大きな被害もなく、3月14日より通常業務を再開することが出来ました。会議室や印刷機など変わらずお使いいただけます。今後とも、安全安心のふくサポを皆様に提供してまいりますので、よろしくお祈りいたします。

H23. 5月 内山、桜井



# ふくサポ 通信

## 2011年4・5月号

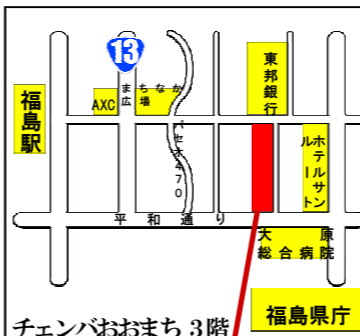
発行日：2011年4月30日  
編集：特定非営利活動法人  
ふくしまNPOネットワークセンター  
発行：福島市民活動  
サポートセンター  
〒960-8041  
福島市大町4-15  
チェンバおおまち 3階  
TEL：024-526-4533  
FAX：024-526-4560  
URL：http://www.f-ssc.jp  
E-mail:f-ssc@bz01.plala.or.jp

■開館時間  
午前10時～午後9時30分  
■休館日 毎週火曜日

ふくサポとは・・・  
・市民活動やボランティアの情報を提供しています。  
・市民活動やボランティアに関するご相談にお答えします。  
・登録制のレターケースや印刷スペース、打ち合わせができるスペース等をご用意しております。  
なお、ふくサポの運営は福島市から委託を受けたNPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが行っています。

ふくサポの  
連絡先は

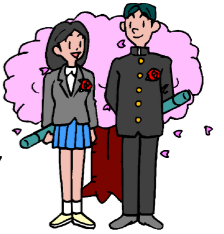
こちらから→



◇JR福島駅から徒歩8分。当サポートセンターには駐車場はありませんので、車でお越しの際は、周辺駐車場をご利用くださるようお願いいたします。



- コラム「被災者支援のボランティアをつなぎます」
- 福島市の活動団体を訪ねる  
第16回「NPO法人ふくしま成年後見センター」さん
- 今、復興の時。動き出す市民活動団体特集
- 「パセナカ・ミッセ」オープン！！で何が変わる？
- 今月の図書紹介
- 助成金情報・復興活動掲示板
- ふくサポ探検隊  
～にゃんこ隊長、紹介！図書コーナー～



## コラム

### 「被災者支援のボランティアをつなぎます」

(福島大学教授/  
NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター副理事長/星野瑛二)

東日本大震災、そして相続く余震、皆さん大丈夫だったでしょうか。被災された方には心より深くお見舞い申し上げます。

福島市民活動サポートセンターでは、センター管理運営を受託している中間支援組織「ふくしまNPOネットワークセンター」が立ち上げたボランティア・マッチング・プロジェクトの事務局を担うことになりました。ボランティア・マッチング・プロジェクトの趣旨は、NPO・市民活動団体のボランティアのニーズを把握しながら、他方でボランティアのシーズ情報をストックして、双方をつないでボランティア活動を推進していくことに目的があります。

まずは、被災者を支援しているNPO・市民活動団体に対して、ボランティアさんにどのようなことを支援して欲しいか、すなわちボランティアのニーズ調査を実施してきました。併せて、NPO・市民活動団体に対して、ボランティアとしてどのような支援をすることが可能か、すなわちボランティアのシーズ調査を実施してきました。そして他方では、一般のボランティア希望者を募り、ボランティア登録もお願いしてきました。

ボランティア・マッチング・プロジェクトというのは、これらのニーズとシーズとを突き合わせて、条件が合えば、両者をつないでいくという仲介の橋渡しをしていくプロジェクトです。ボランティア登録の数が大きいほどマッチングの可能性は高くなりますので、ボランティアセンターを運営する福島市社会福祉協議会にもご支援をいただくことにいたしました。

特に避難所での生活が長くなるにつれ、ボランティアのニーズは多様化し、より専門性が求められてきます。これから、さらにNPOの専門的シーズを活かしたボランティアによる、きめ細かな支援が求められてくるかと思えます。紙面の関係でつないできた具体例は省略させていただきますが、「ふくサポ」の掲示板やホームページをご覧いただければおおよその内容は把握できます。皆様の利活用をお待ちしています。



## 助成金 活動支援・ お知らせ情報

※詳しい情報はふくサポホームページもしくはふくサポ館内に掲示してあります

### 平成23年度ニッセイ財団高齢社会助成 「共に生きる地域コミュニティづくり」公募

〈対象〉①実践的研究助成…高齢社会における地域福祉、まちづくりを探索する実践的研究等②先駆的助成…高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的助成  
〈支援金額〉①1年間1件当たり平均120万円程度。最長2年間で200万円～250万円程度  
②最長2年半で700万円以内  
〈応募締切〉①平成23年6月15日(水)  
②平成23年5月31日(火)  
〈お問合せ先〉日本生命財団  
高齢社会助成 事務局  
電話 06-6204-4013

### 日本財団ROADプロジェクト「東日本大震災にかかる支援活動助成」

〈対象〉「東北地方太平洋沖地震」による被災者・被災地支援に関わる活動。特定非営利活動法人やボランティア団体、その他の公益法人  
〈助成金額〉上限100万円  
〈応募締切〉平成23年6月30日(木)まで  
随時受付  
〈お問合せ先〉  
日本財団ROADプロジェクト  
災害支援コールセンター  
電話 0120-65-6519

## ふくサポ パネル展示の ご案内

※ふくサポ交流広場にて開催

### 平成23年度「国際交流・協力団体 東日本大震災に関する活動助成事業」

〈対象〉福島県内の被災者や避難者に対して、団体の特色を生かし外国出身県民等と一緒に主体的に直接実施する活動。協会HPの【市町村の国際交流協会】【県内の日本語教室】【民間の国際交流団体】に掲載されている民間団体。  
〈助成金額〉1団体あたり上限10万円  
〈応募締切〉平成23年5月20日(金)  
平成23年6月15日(水)  
〈お問合せ先〉  
(財)福島県国際交流協会 担当:幕田  
電話 024-524-1815

### 花王・コミュニティミュージアム・ プログラム2011

〈対象〉被災された方を応援する文化・芸術分野の市民活動 A助成…当該分野での活動実績がある団体  
B助成…花王・コミュニティミュージアム・プログラムで助成をうけたことがある団体  
〈助成金額〉1件当たり50万円上限  
〈応募締切〉平成23年5月31日(火)  
〈お問合せ先〉特定非営利活動法人  
市民社会創造ファンド  
「花王・コミュニティミュージアム・プログラム2011」事務局 (担当:神山)  
電話 03-3510-1221

### 第23回(2011年度) 地域福祉を支援する「わかば基金」

〈対象〉①支援金贈呈の部…地域で活発な福祉活動をすすめる、この支援金でより活動の輪を広げたいグループ  
②リサイクルパソコンの部…パソコンを利用して、すでに地域で活発な福祉活動に取り組み、台数を増やすことで活動の充実を図れるグループ  
〈支援金額〉①1グループ最高100万円  
②1グループ3台まで  
〈応募締切〉平成23年5月31日(火)  
〈お問合せ先〉NHK厚生文化事業団  
「わかば基金」係 電話 03-3476-5955

### NPO法人「市民後見サポート」の会 パネル展

〈期間〉5月1日(日)～30日(月)  
〈提供〉NPO法人  
「市民後見サポート」の会  
(元 成年後見制度研修委員会)  
☆ 最近、よく耳にする成年後見制度。成年後見制度って何だろう？今、何故必要なのか？「市民後見サポート」の会の活動内容とともに紹介します。

### 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」助成事業

〈対象〉被災地をはじめ全国で、東日本大震災で被災された方々への救援・支援活動を現に行うボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、学校法人、公益法人等  
〈助成金額〉1団体あたり上限300万円  
〈応募締切〉平成23年6月10日(金)  
〈お問合せ先〉社会福祉法人  
中央共同募金会企画広報部  
(助成金担当)  
電話 03-3581-3846(代)

### 公益信託うつくしま基金 「災害救援緊急支援コース」

〈対象〉①福島県災害ボランティアセンター及び市町村災害ボランティアセンターが実施する災害救援事業。②福島県内のNPO法人、団体、グループによって主体的に行われる災害救援事業  
〈助成金額〉①上限500万円  
②1団体あたり上限100万円  
〈応募締切〉平成23年5月13日(金)  
平成23年6月30日(木)  
〈お問合せ先〉特定非営利活動法人  
うつくしまNPOネットワーク  
電話 024-953-6092

### 三井物産環境基金 2011年度 東日本大震災 復興助成

〈対象〉東日本大震災の被災により発生した環境問題を改善・解決し、持続可能な社会の復興・再生を行う活動 活動助成…NPO法人、公益法人、大学等  
研究助成…大学、公的研究機関、公益法人、NPO法人等  
〈助成金額〉総額6億円  
〈応募締切〉平成23年5月31日(火)  
〈お問合せ先〉三井物産(株) 環境・社会貢献部 三井物産環境基金事務局  
活動助成問合せ先 03-6705-6156  
研究助成問合せ先 03-6705-6153

### 6月に再開 「懐かしのふくしま写真展」

〈主催〉フクシマサービスマスターズクラブ  
〈お問合せ先〉  
fsgc01@gmail.com  
TEL 090-6685-7020  
「ケータイで歴史と文化にふれる旅」で市民の皆さんから提供いただいた昭和の「福島市」写真を展示します。3月に震災の影響で一時的に中断した写真展。好評につき再開致します。

# 復興 活動 伝言板

### 「物資提供」

〈提供〉大人用・赤ちゃん用の紙おむつ、ミルク、ベビー服、おしりふき  
※ホームまで取りにこられる方でご希望の方に差し上げます。  
〈お問合せ〉  
まごころケアホーム高湯の里  
TEL 024-591-1950

### 「通訳・ コーヒー、紅茶の差し入れ」

〈提供〉コーヒー、紅茶の差し入れ  
英語、フランス語、スワヒリ語の通訳  
〈お問合せ〉  
ルワンダの教育を考える会  
TEL 024-533-8289

### 「心のケア」

〈提供〉産前産後のママの心の相談や心のケアの講習  
〈お問合せ〉  
ママブルーネットワーク  
E-mail:  
info@mama-blue.net

### 「物資提供」

〈提供〉全国から物資を集めるネットワークあります。  
〈お問合せ〉  
船と翼の会ふくしま  
E-mail:  
Kands20504@heart.ocn.ne.jp

他に  
「チャリティバザーの仲間募集！！」  
「看護・介護などの活動をする拠点となる場所を求む」  
「出前コンサートできます」  
「学習支援できます」などの情報がよせられています。詳細はふくサポまで。

## ふくふくプロジェクト

4月27日(水)ふくサポにおいて、「ふくしまNPO・市民活動団体連携復興プロジェクト会議」設立総会が開かれ、約30団体70名の参加者があった。この会の中で、ふくふくプロジェクトが設立することが承認され、団体同士の情報の共有や情報センターの設立、被災者支援部会(物資供給、子供のケア、高齢者福祉、衛生環境)、復興計画部会(新エネルギー・産業、雇用創出、コミュニティ再生・行政との協働)の分科会などの説明があり、市民活動団体を通じた復興活動が話し合われた。



(上写真)  
説明を聞く会場内

## 交流コーナーから、今月の図書紹介

こうだったのかNPOの広報/NHK記者 武永勉 著/社会福祉法人 大阪ボランティア協会 発行



「活動を広く伝えたい」「仲間を増やしたい」。でも、うまく言えない、伝わらない！！と悩んでいる方に、忙しくても、文章が苦手でも、デザインがダメでも大丈夫なNPO向けの広報を丁寧に解説した本。今までなかったタイプの今日から役立つ広報本です。  
(コメント)NPOの広報担当者、必読！マスコミ記者が、自ら記事にしたくなるニュース・リリースの作り方・使い方を、とても分かりやすくアドバイスしています。1時間で読めて、気付きがたくさん！！今後のチラシに活かせること間違いなしです。

交流コーナー図書スペースで閲覧できます。貸し出しには、免許証などの身分証が必要です！！

## 福島市の活動団体を訪ねる

震災後、桜満開の4月。原発問題など様々な問題が浮上する毎日  
にめげることなく、地道に活動されているふくしま成年後見センター  
さんにお話を聞きしてきました。

### ⑩回目 NPO法人 ふくしま成年後見センターさん

代表者：代表理事 中島 靖治 氏 國井 輝夫 氏

会員数：54名

活動暦：平成21年1月6日にNPOの法人格をとり、NPO法人としての活動暦は3年目に突入した。

#### 活動内容

「今なぜ、成年後見制度なのだろうか？」そんな声をよく耳にするようになった最近。その問いを代表の國井氏にぶつけてみる。國井氏は語る。「現在、80歳以上の認知症患者が何人いるかわかりますか？実に80歳以上の4人に1人が認知症といわれているのです。」高齢化と言われる日本の現代に80歳以上の4分の1が認知症だとすれば、驚くべき数字である。思わず自分の未来の心配をしてしまう。

成年後見制度とは、認知症、知的障害等により判断能力が不十分な人が悪徳商法などの財産侵害にあつたり、虐待等で人権が損なわれたいりしないよう安全安心な生活を支援する仕組みである。

また、この制度には「法定後見制度」と「任意後見制度」の2つがある。

「法定後見制度」は認知症になった人を、親族や市町村長などが判断能力が不十分であることを理由に申し立てをし、家庭裁判所が成年後見人等を選任し、財産管理や身上監護について支援する。

「任意後見制度」は判断能力があるうちに信頼できる人に判断能力が不十分になった時の財産管理、身上監護を依頼する。

國井氏によると、今、成年後見を必要とする人は、日本に約500万人近くいるとのことだ。まさに高齢化による現代の社会問題であろう。「昔は、家族が高齢者のめんどうをみるのが当然だったし、認知症になる人数も少なかったから、成年後見制度なんていらなかったのよね。でも、今は昔より寿命も延びたでしょう。それに独居老人も増えている。家族はいても事情があつて一人で住まなくてはならなかったり、中には家族と住んでいても家族内で虐待がおこなわれることがある。年金を家族が使ってしまう、本人には十分な手当てが行われない。肉親だからこそ悲劇もあるんだよ。悲しいことにね……。だから、第三者の目が必要なきももある。それに、悪徳商法などで、契約を結んでしまっても成年後見制度を利用すれば、契約を解除できるからね。」その言葉はとても重く感じられた。

では福島に成年後見人は何人いるのだろうか？そんな疑問がわいた。ここふくしま成年後見センターでは、福島県内において間もなく2人の任意後見受任者、16人の生活支援員が存在するようになる予定だ(現在は任意後見受任者1人・生活支援員3人)。それでも、まだまだ足りないのだという。「福島市も頑張っているけど、まだ、成年後見の必要性は広く理解されているとはいえず市長申し立ては、充分ではない。」そう言葉をもらす國井氏。

そこで、ふくしま成年後見センターでは、成年後見の普及、啓発事業として年に2回の成年後見に関する講演会、成年後見にかかわる相談(講演会当日以外に福島市毎週月曜日10:00~15:00・郡山市第1・3土曜日10:00~15:00)、会員の成年後見に関するレベルアップをはかる研修(毎月1回)、他に一般向けに年1回4日間の研修を行い成年後見人等の増加をめざす事業をおこなっている。もちろん、成年後見人、生活支援員等を引き受ける事業もある。

今、東北は3月にあった大震災の影響で、大きな問題を抱えている。もちろん、ここ福島市も例外ではない。そんな中で、國井氏は何を思うだろう？最後に聞いてみた。「避難所にも成年後見人が必要な人がいて、先日も任意後見人の要請があつたばかりなのです。環境がかわれば、認知症などの症状はすすむから、本当はもともと、必要な人がいると思う。私たちは、こういった形で、自分たちができる範囲で、皆さんのお役に立ちたい。それが私たちにできる復興活動です。」と力強く語った。

「自分たちにできること」きつと、今すべての日本人が問われていることではないだろうか？その答えは私たちの明日の力につながるに違いない。

(取材：内山愛美)



(左写真)成年後見について語る國井氏

(右写真)ふくしま成年後見センター



(右写真)研修会



## 広がる！！ 復興支援の輪

3月11日の東日本大震災で、福島県ではたくさんの犠牲者をだし、多くの人々が避難を余儀なくされた。震災から、2ヶ月たった今でもその爪あととは大きい。そんな地域を復興させようと多くのボランティアが活動を開始した。ふくサポでは、そんな頑張る人々取材した。

### がんばろう福島！ 種蒔きコンサート

3月11日(金)14時24分、多くの人々の時間が止まった。心痛から心の時間が止まったのだと、避難所で生活されている方が語った。そんな心を動かそうと4月2日(土)NPOファーム庄野があづま運動公園体育館ホールで「がんばろう

福島！種蒔きコンサート」をおこなった。岸本裕子理事長は「本来、ファーム庄野の設立記念コンサートとして企画されたものだが、このコンサートで少しでも多くの避難者の方の心が癒されればいい。福島が元気になればいい。と、この避難所に場所を変え開催した。」と挨拶の中で語った。コンサートでは自閉症というハンディをもつ佐々木仁志さんのピアノ演奏や、福島市民オーケストラ・カルテットの弦楽四重奏、他にオカリナ演奏など心に沁みるメロディーが広がった。会場には演奏に涙する人もおり、ひととき、優しい空気が会場を満たした。



(上写真)ピアノを演奏する佐々木さん

### 炊き出し in あづま総合運動公園

4月21日(木)あづま総合運動公園体育館に避難されている約700人の避難者の方々にあたたかい食事を提供したいというおもいで「とん汁の炊き出し」がおこなわれた。これは、4月16日の「福島における震災・原発に対する対応を



(上写真)16日の「福島における震災・原発を考える会」で現状を話すシャローム大竹氏

(下写真)とん汁を煮る大釜



(上写真)野菜をさぎむボランティア

考える連絡会」での話し合いをうけておこなわれたもので、この会に参加した多くの団体(シャローム、まごころサービス福島センター、あづまスポーツクラブ、IIYOなど)が参加し、避難所の方々にも参加をよびかけ、あづま総合運動公園では昼食にこの日作られたあたたかいとん汁がふるまわれた。

### ふくしまスカイパーク

NPO法人ふくしま飛行協会では、3月12日

より緊急開場し、3月13日から有視界飛行可能な時間帯を使用可能にし、国土交通省航空局と協議しながら、災害地支援物資中継や原発対応人員輸送、報道機関各社、航空写真撮影、福島県入り緊急人員輸送などのヘリコプターの離着陸をおこなう他、原発上空撮影無人ラジコン飛行機の操縦ミッションの受入などをおこなっていた。

### ふくしまNPOネットワークセンター

ふくサポと連携をとり、ふくサポネットを設立した。このふくサポネットでは、震災復興活動をしている団体の情報(支援を求めていること。または、団体として支援できること。)やボランティアを募集し、活動団体の情報の共有化、マッチングなどを目的として活動している。このふくしまNPOネットワークセンターホームページの掲示板により、オリンパス(企業)から、社員100名のボランティアの申し入れがあり、情報をつないだ結果、いわき市の瓦礫撤去で活躍されている。今後も新しい情報を提供していく予定。

### まごころケアホーム 高湯の里

災害、原発事故などにより、避難所となったあづま総合運動公園体育館

に張り紙で情報提供をする他、高齢者のデイサービス、宿泊可能なショートステイ、出前のデイサービス、子どもさんの一時あづかりなどをおこなっている。

高湯の里では、震災後、水・電気・ガスのライフラインが全面使用可能だったので、受け入れ体制がすぐ整い、老人を含め、障がい者などの避難者を受け入れた。これまでに問合せは20件ほどあつたが、さまざまな希望とのマッチングに苦労したとのことだ。また、食事等を含めて利用者はのべ100名を超え、今後も引き続き、活動を継続していく予定。